

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1273100295		
法人名	社会福祉法人 天祐会		
事業所名	グループホーム富士見苑		
所在地	千葉県富津市篠部2310-3		
自己評価作成日	平成23年12月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生		
所在地	千葉県柏市光ヶ丘団地3-2-104		
訪問調査日	平成24年1月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームの枠を守りつつ、特別養護老人ホームに遜色ない位の介護レベルを維持している。施設のもつ包容力で、処遇困難高齢者を積極的に受け入れ、結果的には精神病院からの入所依頼の方も穏やかな毎日を送る事が出来るようになっており、職員の意識レベルもかなり向上している。更に、ターミナルケアにも積極的に取り組んでおり、認知症状の為に病院から入院を断られる利用者も施設で対応するなど理想的な運営を実践できている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は平屋建築で天井が高く、採光も工夫され非常に明るい。リビングでは、利用者同士あるいは職員との会話を楽しむ利用者の様子や炬燵で寛ぐ利用者の姿も見受けられる。事業所を運営する法人の理念は「職員心得」の中に解説され、すべからく浸透していて、事業所では仏教の教えを引用した教育を進めるなど、安全・安心・穏やかに配慮しつつ忍耐強い見守りの支援を行い、運営理念の具体化に努めている。また、利用者の終末期については、協力医の往診、訪問看護師、担当スタッフ、家族の役割を決め、充分話し合いの上で家族の了承を得ている。所内で終末期を迎えられた家族からは謝意が述べられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「安全・安心・穏やか」を運営理念としており、日々の利用者処遇にも活かされている。ほぼ毎日のように来訪者が訪れ、近隣の方々からも地域とともに存在する施設になっている。	法人の理念は「職員心得」の中に解説され、すべからく浸透していて、事業所では仏教の教えを引用した教育を進めるなど、安全・安心・穏やかに配慮しつつ忍耐強い見守りの支援を行い、運営理念の具体化に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地区の町内会に所属しており、地域と共に諸活動を行い、連帯意識の中で共存している。ゴミ拾いなど定期的に参加しているの、地域の顔なじみも大勢いるし、日々の運営にも役立っている。	苑には地区の区長や防災委員が頻りに訪れる。また回覧板などで情報の共有を図るとともに地区の行事に参加し地域の一員としての役割を果たしている。このような交流の中で自然発生的に連帯感が形成されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設長は積極的に地域の交流を推進しており、学習会や講演などで認知症の理解や在宅での困りごとの相談にものるなど、地域の社会資源としても有効に機能している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に参加する地域の方々にもグループホームでの生活を理解して頂き、近隣の在宅生活困難者への情報発信を行っている。参加者が地域福祉の中核となり、施設が助言者となりつつある。	地域包括支援センター、区長、民生委員、利用者家族、苑職員が出席し年に2度開催している。活動報告を行うとともに、外部出席者からの助言を求め、苑からも地域への助言を行い、共に積極的に関わる会議としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	富津市地域包括支援センターの所長も運営推進会議のメンバーであり、地域の情報を共有している。施設長が介護保険運営協議会のメンバーでもあり、地域福祉の向上に寄与している。	施設長は富津市介護保険運営協議会のメンバーであり、苑と市は情報を共有している。また、介護福祉課や生活保護課等との連携で、諸課題の早期解決に向け、対応するなど地域福祉の向上に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアなど当たり前のことであり、類似の行為も皆無であるよう定期的に指導・教育を行っている。職員は優しさと思い遣りに溢れた日々の介護業務に誇りと自信を持っている。	職員研修及び会議で身体拘束またはその類似行為が利用者に与える精神的、肉体的苦痛について詳しく説明し職員の理解推進に努め、利用者が筋力など残存機能をフルに発揮して日々の生活が送れるよう、安全に配慮しつつギリギリまで見守りに徹している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者の虐待など無いのが当たり前であり、入職時やその後の施設内研修などで指導を徹底している。利用者の精神的な満足度を高める事を全職員の目標としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についても定期的に施設内研修などで指導・教育をしている。利用者の家族についても正しい在り方についてアドバイスを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	インフォームド・コンセントの理念にのっとり利用者やご家族に対し、時間をかけて懇切・丁寧に説明し納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の面会等のおり、親切・丁寧に接する事で意見の表出がしやすい環境を作り出すよう心がけている。要望などには可能な限り運営に反映させている。	運営推進会議や面会時に要望や意見を訊くほか、遠方の家族には利用者の状況を手紙で知らせ意向を訊くなどしている。また、利用者の要望や意思表示を汲み取り、苑内で情報を共有するとともに運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議やグループホーム会議、更には個人面談など、あらゆる機会に意見聴取を行っており実現可能なものから、運営に活かしている。	事業所はユニット会議、グループホーム会議、職員会議、施設長会議と4段階の会議の仕組みを有して職員の意見を引出し、課題を見出すとともに、解決法を見出して、利用者支援の質の確保を目指している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価システムを活用するなど、職員のモチベーションアップに繋がるよう努力している。トップダウンではなく、ボトムアップできる環境造りに日々努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員研修や、中堅職員研修、更には次期リーダー研修など積極的に参加しており職員レベルに応じた教育を行っている。個々にはOJTの機会ごとに指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他施設などに見学や研修を行うなどサービス向上に向けた積極的な交流をしている。良い点は取り入れ、改善すべき点は話し合うなどモチベーションアップに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個人の生活歴や家庭環境など利用者との信頼関係構築に向けて情報収集を行っている。利用者の精神的満足のため、日々傾聴を心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期ケアプラン作成時など家族に十分な説明を行っている。その後も継続的に困りごとの相談に応じる事で良好な信頼関係を維持できるよう運営している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅において最優先すべき課題が何であるかの確に把握し、タイムリーな援助に結び付くよう関係各機関との連絡調整に取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活において介護する側と介護される側という立場に置くことなく、日々の業務のなかでもお互いに協力しやすい環境を構築している。そうする事が毎日の笑顔に繋がっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	諸行事のおり、利用者と家族の絆を大切に、協働の意識を持ち、取り組む事でより良い人間関係を維持、継続できている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所後も近隣の方々との交流を積極的に支援しながら地域に根付いた施設であるよう心がけている。ほぼ毎日のように訪問者があり、馴染みの関係は継続している。	来訪者との触れ合い、近くのスーパーの鮮魚部での買物や、防砂林の向こう側にある海岸の散歩、東京湾観音への初詣、水仙ロードへのドライブ、ぶどう狩りやイチゴ狩り等地域との接点を持ちながらの生活を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ADLや性格を見極め、利用者同士が良好な人間関係を維持できるよう支援を行っている。入所後に新たな人間関係が構築される際には見守りと応援の眼差しで援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も良好な人間関係を維持しており、施設の年間行事などには積極的に参加してくれている。いまでは地域の広報マンとしても支えてくれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	声なき声を聴き取り組みを行っており、言動や動作など僅かな兆候も敏感に感じ取るように職員は接している。職員の感性は非常に高い。	意思疎通が困難な方を含め、日々の密接な関わりの中で、利用者の希望や意向の把握に努めている。また家族とも相談しながら本人本位に検討し、ケアを実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の調査などで把握した事柄から会話が進む際には積極的に情報の収集を行い、利用者の正確な人間像の理解に努めている。結果的に毎日の良好な生活支援に繋がっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランの確認を日々行う中で最新の現状把握に基づいた援助を行うと共に、日々の微妙な変化にも対応できるよう職員一人ひとりが心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース担当の報告やユニット会議の内容に沿ったモニタリングを行い、より良いケアプランの作成を心がけており、職員が最新のケアプランを共有できるようにしている。	介護計画は、半年または1年とし、家族の理解も得ているが、随時ケースカンファレンスでモニタリングの結果を反映し修正を加え、職員に周知をすとも、家族との情報共有にも努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録は職員全員が把握できるような体制となっており、日々のミーティング等で周知されているので職員全員が利用者の目標を理解している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の問題も全体の問題も「今ここ」でできる最良の取り組みを行っている。介護保険法だけでなく人間本来の在り方についてもニーズに即した対応を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	積極的に外出を支援しており、地域の社会資源との継続的な連携に心がけている。ボランティアの来訪など、施設運営にも密接に結びついている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在、3病院と定期的を受診しており、バイタルチェックの内容を持参するなど、積極的に支援を行っている。往診して頂ける協力医もあり、医療体制の万全を期している。	かかりつけ医での受診は家族対応とし、協力医での受診は事業所が行うが、依頼により往診も可能である。またかかりつけ医の判断で、他の病院紹介もあり、あらゆる症状に対応できている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業者内の看護師は日々グループホームの利用者にも配慮しており、病気の早期発見・早期治療に貢献している。近医の訪問看護師とも情報を共有し、グループホームで出来る医療を実践している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の身体能力の低下を少しでも軽減できるように入院先の看護職と積極的、密接的に連絡を取り合い、協働している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した利用者や終末期医療の在り方を該当家族と定期的に相談しており、家族との親身な話し合いで満足の行くQODが実現できるように心がけている。	利用者の終末期については、協力医の往診、訪問看護師、担当スタッフ、家族の役割を決め、充分話し合いの上で家族の了承を得ている。また、事業所内で終末期を迎えられた家族からは謝意が述べられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	リスクマネジメント教育は定期的に行っている。医療知識の向上にも努めており急変時や事故時の対応についても全ての職員が習熟している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災避難訓練などあらゆる想定を実施し、人命第一の理念で安全・安心を実現できるように日々の職員教育を実施している。	避難経路は多方面に確保されており、スプリンクラーも1月中の着工が計画されている。また、地域には連帯意識があり、緊急時の応援も期待できる。なお、食糧は米など2週間分程度を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のメンタルな面についても職員一人ひとりがもしも自分の事だったらとの考えで接するように指導しており、心優しい職員に育っている。	常に利用者の行動には理解を示し、決して否定せず利用者の気持ちを大切にしている。失禁時にもさりげなく対応するなど接遇の心得については、事業所内で徹底した研修を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で心中を察し、本人の希望が出来るだけ叶うように心懸けている。毎日の食事についても出来る限り希望に添えるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や日々の日課についても利用者第一を実践しており、枠にはめて介護する事の無いように指導・教育している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族との積極的な話し合いにより季節ごとの衣替えや新しい服の購入など、自由に自分なりのおしゃれが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本日の献立を事前にアナウンスし、食事に興味がわくように支援しており、可能な限り一緒に食器洗いや後片付けに協力して頂いている。	献立はカロリー・栄養素共に年齢別に考慮されている。馴染みの店から新鮮、安価、美味な食材の調達をしている。午後の間食は午前中に利用者の希望を聞き、3時には提供出来る様努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	男女別・年齢別に栄養摂取ができるよう配膳するようにしている。水分摂取量や食事の摂取量は記録しており、脱水症状などを未然に防止している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	うがいや入れ歯の手入れを積極的に行っており、口腔清潔の維持に努めている。無菌顎の方についてもほうじ茶を提供するなどで匂いの除去に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的なトイレ誘導を行うなど、排泄用具に頼らない介護を心がけている。夜間などは尿量などにも配慮し、適切な排泄介助を行い、自立支援に取り組んでいる。	排泄記録を基に、また利用者の行動や表情から排泄誘導をしている。夜間は利用者の状態によりベッド上での排泄介助もある。また居室内にポータブルトイレを設置するなど様々の工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い献立で便秘を予防している。更に毎朝食に牛乳とバナナを提供するなど、自立排便を促している。協力医によって適切な下剤の使用により便秘を予防している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	365日入浴できる体制で入浴支援に取り組んでいる。マン・ツー・マンの入浴でゆったり暖かい入浴環境を構築している。	利用者の希望で毎日の入浴が可能であり、入浴時間も出来るだけ希望に合わせている。利用者の体調で入浴できない場合は、清拭を行うなど不快感の無いよう、常に清潔を心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日の生活において自由な休息が出来るように支援している。3食昼寝付きを実践している。夜間においても安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ノートを職員と共有しており、服薬内容が変わった場合など速やかに理解できるような体制を取っている。往診時は必ず職員が立ち会い、最新の状況を把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	女性の利用者は簡単な裁縫仕事や男性利用者などは掃除や力仕事など、やれる範囲で日々の介護職の手伝いをしてくれている。感謝の言葉や労いの言葉に喜んでくれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や必要物品購入などで、適宜外出の機会を作ったり、ホテルのバイキング食などに出かける事で気分転換を図っており、季節に応じたドライブなども検討し、実施している。	暖かい日は富津海岸の遊歩道や公園の散歩を楽しんでいる。ホテルでのバイキング、君津のとんでんなどで、職員見守りの中、好物を自由に選び食べる事が出来、利用者の満足に繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に同行したり、レジに並ぶことで金銭の使用について残存機能の維持に努めている。所持する事については外出時は奨励し、お釣りなどの管理を側面的に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については事務所の電話を利用できる状況にある。手紙についてもポストへの投函など支援しており、暑中見舞いや年賀状などやり取りしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂に隣接して畳スペースがあり、炬燵なども設置している。季節に応じ、掲出物も工夫し、居心地の良い共用空間の構築に心がけている。	当事業所は平屋建築で天井が高く、採光も工夫され非常に明るい。リビングでは、利用者同士あるいは職員と会話を楽しむ利用者の様子があり、また炬燵で寛ぐ利用者の姿も見受けられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂などの座席配置は利用者の性格や好みに合わせ一人ひとりが快適に過ごせるように工夫している。団欒の場で毎日円満に共同生活している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は入所前の生活の延長線上にあるように家族に対し働き掛けている。古いものでも馴染みの家具などは引き続き使用して頂いている。	利用者が入所前に暮らした住まいと同じ様な居室造りを家族に要望し、環境の差を少なくする配慮をしている。居室は利用者の生活の場と心得、使い方も自由とし、職員は見守りを基本としている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食堂などは、積極的にお手伝いができるようにカウンターキッチンとなっている。対面して食事介助ができるように座席も工夫している。		